第８回議会改革調査特別委員会会議記録

日　時　　令和５年１１月１０日（金曜日）　　午前１１時１０分　開会

場　所　　水戸市議会　全員協議会室　　午後　１時５８分　散会

付託事件

(1) 議会の改革に関すること

１　本日の会議に付した事件

(1) 水戸市議会ハラスメントの根絶及び防止に関する条例（素案）の検討について

(2) 議会基本条例の検討について

(3) 各会派等からの申し入れ検討事項の優先順位について

(4) その他

２　出席委員（２６名）

委員長	綿引　健　君	副委員長	佐藤昭雄　君
委員	池田悠紀　君	委員	中庭由美子　君
委員	土田記代美　君	委員	田中真己　君
委員	渡辺欽也　君	委員	細谷智宏　君
委員	打越美和子　君	委員	マーサー川又　君
委員	森　智世子　君	委員	滑川友理　君
委員	萩谷慎一　君	委員	田尻由紀子　君
委員	森　正慶　君	委員	後藤通子　君
委員	鬼澤真寿　君	委員	藤澤康彦　君
委員	小泉康二　君	委員	須田浩和　君
委員	鈴木宣子　君	委員	高倉富士男　君
委員	黒木　勇　君	委員	袴塚孝雄　君
委員	安藏　栄　君	委員	松本勝久　君

３　欠席委員（１名）

委員　田口文明　君

４　委員外議員出席者（なし）

５　説明のため出席した者の職，氏名

事務局長	天野純一　君	総務課長	加藤清文　君
議事課長	大嶋　実　君		

6　執行部出席者の氏名

財務部長	白田敏範君	財政課長	佐藤直明君

7　事務局職員出席者

議事課長補佐	綱島卓也君	議事係長	武井俊夫君
書記	樫原和則君	書記	久野琢郎君

午前１１時１０分　開会

○綿引委員長　引き続き，お疲れさまでございます。

定足数に達しておりますので，ただいまから第８回議会改革調査特別委員会を開会いたします。

議事に先立ちまして，田口文明委員が所用のため欠席との連絡がありましたので，御報告いたします。

なお，本日，カメラ等の撮影の申込みがあり，これを許可いたしましたので，御了承をお願いいたします。

それでは，これより議事に入ります。

本日の案件は，お手元にお配りさせていただきました日程のとおり，水戸市議会ハラスメントの根絶及び防止に関する条例（素案）の検討についてほか３件であります。

初めに，１番の水戸市議会ハラスメントの根絶及び防止に関する条例（素案）の検討についてであります。

本件につきましては，さきの１０月２３日に開催いたしました前回の特別委員会におきまして，条例の素案について御協議をいただき，各会派等で持ち帰り検討となっているところでございます。

それでは，本件につきまして御意見等がございましたら発言を願いたいと思いますが，会派ごとにお伺いをしてまいりたいと思いますので，よろしくお願いいたします。

公明党さんのほうから，時計回りで聞いていきますので，すみません，お願いいたします。

○黒木委員　ハラスメントの事案が確認された場合，議長の取り仕切りの中で，例えば水戸の代表者会議になるのか，議会運営委員会になるのか，議長の判断でその都度，事案が多岐にわたると思いますので，議員間なのか，議員が職員に対してなのか，また，いろんなパターンがあると思いますので，その時々，事案に応じて議長が采配していただきまして，議会の代表の方々との中で話し合って，解決に向けて進んでいくと。その中で，専門家の弁護士さんとかが必要であれば，事案に応じて有識者に入っていただくとか，あくまでも議長が中心として仕切っていただくというのがよろしいかというふうに思います。

また，議長が審査委員として，例えば２名の議員さんを指名していただいて，その２名の方が聞き取りとか，議長を含めて行っていただくとか，事案は多岐にわたると思いますので，そういう形がよろしいのかなというふうに考えております。

○綿引委員長　ありがとうございます。

次，共産党さん，お願いいたします。

○田中委員　基本的に条例制定については賛成をいたしますが，前回も申し上げたんですけれども，第４条の議長の責務以下，相談を受ける仕組みの問題ですけれども，第４条第３項で，調査を行うのが代表者会議というふうになっているわけですけれども，議員が起こした行為に対して，内々で調査するのかという批判が起きることも，可能性としてはあるのかなというふうに思いますので，第三者機関的なものを設置することも検討するべきじゃないかということが一つあります。

水戸市の職員のほうのハラスメントの防止に関する規程というのがありますけれども，これは副市長をトップにして，教育長，上下水道事業管理者，消防局長，総務部長というふうになっていて，関係者は参加できないというふうな規定も明文化されているので，そういった被害者が申告しやすいような規程にしていく必要があるのかなと。これは条例でするか，その先でするかというのはあると思うんですけれども。

例えば，職員が何らかの被害を受けた場合に，直接議長に言うということは，ほぼ困難だと思われますの

で，例えば主管課の課長，あるいは総務部長から議長にとかというような，想定としてはそういうような流れになるのかなと，職員の場合はですね。議員対議員という場合もあるでしょうし，議員が市民からという場合もあるので，様々なパターンを想定して，仕組みを整える必要があるのかなというふうには思います。

基本的には賛成です。

○綿引委員長　ありがとうございました。

次，立憲みとさん，お願いします。

○滑川委員　私たち会派としても，このハラスメントの条例は賛成の立場です。特に第２条には，時代にあわせて性的指向や性自認等のアウティング行為ということも含まれていることから，賛成をしております。

ただ１点，ちょっと意見をさせていただきたいのですが，裏面の第７条のプライバシーの保護について書かれています。若干，先ほどの田中委員からの意見と重複してしまうところはあるんですが，やはりハラスメントや差別を受けたほうというのは，本当に苦しい状況ですし，二度と忘れないような，本当に立ち直れないくらいつらい思いをするという，そういった方も中にはいらっしゃるかもしれません。

そんな中で，安心して相談ができたり話せるというところで，プライバシーの保護というのは最も重要に掲げられなければならないと思いますので，この第７条がきちんと守られつつ，第４条とか，そういったところに反映されるべきだと思っておりまして，万が一，例えば議員間でのハラスメントがあった際に，代表者会議か議運なのかになったとき，どうしても，例えば少数会派の方がとても不利になってしまったりですとか声を上げにくくなってしまったり，内容によっては，またそこで傷をえぐられるといいますか，知られたくない情報を議員間で，そこでまた議論の場で言葉が発せられるというのは，被害を受けたほうからすると，ちょっとつらいところもあるので，そこは公平性，平等性を取って，前回意見もありました第三者委員会ですとか，そういった安心して相談できる機関というのも，どうせであれば整備する必要があるのかなというふうに思っております。

以上です。

○綿引委員長　ありがとうございます。

次に，水政会さん，お願いします。

○小泉委員　水政会としましては，各委員さんにおいて，様々な意見があるところではあるんですけれども，会派としましては賛成の立場でございます。

この条例がトレンドである上で，反対はできないというところだと思います。ただ，これは私の意見も入るんですけれども，条例を設けるのは，政治倫理でいうと，当たり前に本来できていることなんだと思うんですよね。だから，それを特出しでわざわざ設ける話がどこまで必要なのかなというふうにも思いますし，今後控えている議会基本条例とあわせて，こういった細かな倫理的なものだとか，議員の立場保障の話だとか，人権の話とかも含めて，そこであわせて進めていくという形でもいいんじゃないかなというふうにも思ったりしています。これは意見という形になりますけれども。

やっぱり議会運営で一番最重要になりますのは，議会基本条例だというふうに認識しておりますので，そこを柱にしながら，こういった問題，ハラスメントに関しても整えていくと。

あと，公明党さんのほうで話がありましたけれども，やっぱり議会においては，議長の立場というのが極

めて重要なところでもありますので，今現時点でも認識しておりますけれども，しっかりと議会を回す議会運営においては，議長をしっかり軸にして進めていくというのが必要なんじゃないかなというふうに思いますので，意見として申し添えさせていただきます。

○綿引委員長　ありがとうございます。

次，魁水戸さん。

○袴塚委員　私のほうからお話をさせていただきます。

この基本条例，私も会派でお話をさせていただきながら，賛成の立場でお話をさせていただきます。

特に，先ほどありました少数会派，または個人等々に不利益がないようにということは，当然当たり前のことでございますので，そういったことを確保するということからも，第三者会議等で検討し，またケース・バイ・ケースで，その中に専門委員のような方もお招きして，そして御意見を賜ると，こういったことも可能なのかなというふうに思っていますけれども，いずれにしても，この条例をつくって，そして何らかの事案が出てきたときに，さらにどういうふうな補足事項があるのか，こういったことを見極めながら，条例は常に改正が必要でございますから，これを決めたからこのままずっといくということじゃなくて，常に新たなもので改正をしながら，そして議員間，そして議員と執行部，または議員と事務局，または議員と市民，こういった方々の権限，行動をみんなで守っていくと，こういうふうなことができればいいのかなというふうに思っております。

特に第三者機関については，必要に応じてつくれるということもございますので，代表者会議の中で検討していただいて，その中でどなたかの会派から，そういう機関が必要ではないかということになれば，専門家の方々の中で御意見をいただくなり，そういったことをつくると，こういうことも可能だというふうに思いますので，私は，代表者会議の中で整理をするというようなことでよろしいのかなという意見だけ申し上げておきます。

○綿引委員長　ありがとうございます。

次，誠和会さん，お願いいたします。

○松本委員　私たち誠和会のほうも，条例をつくることに対しては賛成です。

その中での審議について，今，袴塚委員もおっしゃっていましたけれども，同じような話になると思いますけれども，議長を中心に代表者会議等々で御審議をしていただく。そういう中に，法律に明るい，専門的な人を参考人として出席をしていただく，こういう方法での進め方がいいのかなというふうには思っています。

ですから，まずは各会派が，条例をつくることに対しては反対はいないようでございますので，早めにこれは条例化をしていったほうがいいのかなというふうに私のほうは思っております。私どもの会派としても大体そういうことでございますので，よろしくお願いしたい。

○綿引委員長　では，最後，国民民主党みとさん，お願いします。

○佐藤委員　私のほうも，この条例につきましては賛成ということですね。

いろいろ皆さんもおっしゃったとおり，議長の中での裁量というか采配の下に，やはり代表者会議等でしっかりと専門知識を有した方々を招聘した中で，しっかりとした議論を進めていく，そういった形がベス

トじゃないかと私は思っております。

根本的には，やはりプライバシーの保護というのが前提でございますので，こういったところは十分，第一義的にやりながらも，議長，さらには代表者会議の中での第三者的な何かを設ける，そういった形式がよいのかなと私は思っております。

以上です。

○綿引委員長　それぞれおまとめをいただきまして，ありがとうございました。

今，御意見を伺ったところ，条例で第４条のところ，議長を中心に進めていくということは，ほぼ全会派で合意をいただいているというふうに思っております。その中で，第三者機関を設けるとか，あるいは素案に示されているような形の下で，代表者会議だけで進めるとか，あるいは，公明党さんあるいはほかの会派からも御意見をいただいた，専門家を代表者会議にお呼びした上で，その上でその先のことを決めていく，多分その３パターンに分かれていくのかというふうに思っております。

改めて皆様に御意見をお伺いしたいのは，その３パターンの中でどれが一番望ましい形なのか，御意見がありましたら，お伺いをしたいと思います。

須田委員。

○須田委員　皆さんにも想像してほしいんですよ。水戸市においては，議長さんもしっかりしている，議員に関してもしっかりしている，それはあり得ない話ですけれども。千葉県にある柏市に関しては，議長さんが大変パワハラで，今，二百何十人から訴えられているという事件などありました。

これ，議長さんがきちんとしている水戸市では大丈夫ですが，そのとき，例えば１０年後，１００年後の議長さんがどういう方か分からない。そういうときに，皆さん想像してみてください。議長派の人というのは，間違いなく議長派で大多数ですから，もし身内に何かあったとき，今の議長さんはきちんと裁く議長さんです。ただ，いずれいつかのときに，そういうことがあったときに，大多数の意見が通るだけのただの審査会になっていく，これが僕の懸念しているところです。

例えば，選挙の前に，水戸じゃないですからね，水戸ではあり得ないですよ，今の水戸では。将来，１００年後になったときに，どういう議長さんが現れるか分からない。あいつ，ほかの選挙に出るんだ，あいつ少しおとしめてやろうなんて，ないんですが，そういう人が出てきたら大変，となると，やはり透明性という問題からすれば，なぜ水戸市の政務調査費がこれだけ守られてきたのか。第三者委員会があったからです。パワハラとかモラハラとか，議員同士のなあなあでやらずに，きちんと第三者をつくらないと必ず起こります，いつか。大多数のほうの暴力につながることが，必ずいつか起こります。ここ４年間，今の議員さんでは起こらないですけれども，それを考えれば，絶対第三者委員会だと私は思っています。それをつくらないんだったら，この条例は意味がない。

また，先ほどうちの会長からもありましたけれども，本来，決まりというのはないのが当たり前です。当たり前に守るのが当たり前。だから，民主主義においては，本来は法律をつくるべきじゃない。問題があるから仕方なくルールをつくっていくというのが，これが日本の考えであります。と考えれば，もしつくるんだったら将来にわたることを考えて，議長が代表者の代表者会議，これは圧倒的に多数のほうが意見が有利になるということになります。となれば，第三者委員会をつくらないと，みんな自分の首と将来の議員さん

たちの首を絞めますよ。それだけ意見を言わせてもらいます。

以上です。

○綿引委員長　ただいまの御意見に対するさらなる御意見，あるいは先ほど私がお示しをさせていただいた件について，御意見があればお願いをいたします。

松本委員。

○松本委員　今，須田委員のほうから，第三者的な委員会というようなお話もありましたね。となると，逆に，事件になっていないものが事件になっているようにすることも考えられますよ。そういうふうな考え方もありますので，私は第三者委員会も悪くはないんだけれども，それを逆に悪用される。そういう裏を考えたときには，やはり代表者会議の中でまずは協議をするほうが，私はいいかなというふうに思っているんですけれども。

第三者委員会というと，それなりのしかるべき方々を指名して，それで第三者委員会は開かれる。その中には議会側は当然入れない。ですから，議会側のほうの意見というのは，その中では話すことはできないという，逆な，マイナスの面もあるのかなというふうに私は思っております。また皆さんのほうで御検討していただきたい。

○綿引委員長　須田委員。

○須田委員　確かに松本委員の言うように，それをわざと代表者が第三者委員会にかけて話題にするという方法も出てきてしまうという懸念もあると思います。

だとすれば，第三者委員会――代表者会議に有識者を呼ぶのじゃなくて，それだけの特別な代表者とか，その枠組みはどのようにするかは別にして，会派の代表なのか，少数会派の意見が通らなくなっちゃうよと。となれば，代表者会議にオブザーバーではなくて，弁護士会，何々会などの誰かをメンバーとして呼ぶ形の第三者委員会でないと逆に，例えばもし数の横暴で，私たちの議会はないですけれども，いつその議員がやられるか分かりませんよ。その人がもしなったとき，表から入った人が正当な意見を言うことで，その人の名誉が守られる。皆さんこれ，必ず起こりますよ，いつかは。いつかは起こる。

例えば，水戸市においてはないですが，別のところで議員が何かやったときの言い方，懲罰委員会。ほかの地域では確実にありますからね。懲罰委員会で特別なことをやる，これ同じことが起こりますよ。だから，第三者を入れた，せめて第三者委員会じゃないにしても，代表者とか議員も入れた，第三者を入れた委員会を設置しないと，必ず問題が起こる。皆さん，自分がそうなったときのことを考えてください。必ず起こりますからね，と僕は将来を予想します。今の議会では，水戸市においてはないですが，となれば，これを代表者に委ねるのではなくて，そういう案件が出てきたときには必ず第三者が入った委員会で決める。これをやらないと，皆さん問題が起こりますよ。

私はそれを予言して，それでも皆さんのこれは議会ですから，大多数がそれでいいんですよというんだったらそれで構わないです。それで，この条例の必要性というのは，今のところ私は見いだしていないですけれども，本当は要らない条例なんだなと最初は思っています。だって，ないんですから，ないものを縛る条例は要らないんです。と思っていますが，やはりその中でも，将来を見据えてつくるんだったら，第三者委員会をつくらないと悪用されることがありますよと。それをきちんと，皆さん考えてみてください。その上

で皆さんが，第三者委員会じゃなくて代表者でやるというんなら，それで構わないですよ。皆さんがそういう形でやるんだったら構わない。一人一人が必ず考えてください。各会派の皆さんが，大きな意見に巻き込まれず，一人一人が考えて，こういう案件が出てきますよ，絶対。

以上です。意見だけですからいいです。

○綿引委員長　ただいまの御意見に対する，さらなる御意見。

先ほど立憲みとさんは，この件についてあまり触れられておりませんでしたけれども，いかがですか。

滑川委員。

○滑川委員　先ほど意見を述べさせていただいたとおりで，特段新しい意見というのはないんですけれども，ただ，やはりハラスメントや差別を受けたほう，私も１期４年間務めさせていただいて，今５年目になりますけれども，生まれ持ったもの，自身で変えられないもの，これについて，心ない発言や，そういった差別を受けることというのも多々ございました。

そんな中で，議員間でそれを言えるか。私，こんなことをされました，こんなことを言われましたと気軽に話せるか，相談できるかといったら，それは言えないんですよね。なので，あと，プライバシーがきちっと保たれて……すみません。

○綿引委員長　プライバシーの件は次にやるので，第４条に関する……

○滑川委員　なので，議員間にはなかなか言い出しにくいというのが，被害を受けた人の気持ちだと思いますので，第三者とか別の方に相談できる場があれば，これから多様な方が議員になる中，より充実した議員活動ができるのかなと思います。

○綿引委員長　ありがとうございます。

そのほかございますか。

高倉委員。

○高倉委員　今の第４条の部分なんですが，ここの条項については，そういう案件が発生した場合の処理をどうするかという条項なんだろうなと思うんですね。それが今回の案文では，議長がその責務を負うという内容になっていますけれども，今おっしゃられているいろんな問題，いろんな場面というのも想定されるわけでありまして，この中では，議長を中心に代表者会議等で，そこで処理するという形になっていますけれども，例えば，必要に応じて議長が，そういう法的な専門の方とか，そういう方に諮問できるような形にして，もめた場合，納得いかない提案をされたという場合には，そういうところに再度諮問できるような，そういった内容を盛り込むとかいう形にしてもいいのかなと思いますね。

また，ちょっと相談できにくい環境もあったりもするので，やはり別途，運用的な部分では，相談の窓口というか，そういうところも検討していく必要もあるのかなと思います。

以上です。

○綿引委員長　須田委員。

○須田委員　ありがとうございました。何回もすみません。

諮問できるというのも，とても大切だと思っています，すごく大切だと。しかしながら，諮問できるという形で，なぜ私がさっきから，第三者を最初から入れる委員会を指定しているかというと，議長が自ら諮問

しなきゃできないわけですから。何回も言いますけれども，うちではないんですよ，これはないと思います。ただ，将来１００年後の水戸市議会で，その議長さんが大変偏った方だと。諮問もしない，それは必要ないとなっちゃうのが，透明性がないでしょうということなんです。

せっかく議会改革調査特別委員会というのを水戸市においてつくって，みんなで進めようというんだから，だったらそういうふうな，ほかのところみたいななれ合いじゃなくて，綿引委員長の下，大津議長の下，平等性の保たれたすばらしいものをつくりましょうと言いたいんです。諮問できるとなっていると，どうしても，諮問しなきゃいいだけになっちゃいます。だから，そこの素案づくりをきちんとつくるような話を，それぞれの一人一人が考えてください。それで，会派の中できちんと話し合ってください。その時間を下さい。

だから，１回ちょっと持ち帰ってもらって，この意見を各個人が自分のことに当てはめると，ありますよ。過去の水戸ではありましたよね。懲罰がいろんな方にかかったという，それは別に一切問題はなかったです。一切なかったけれども，必ず力ある者が有利になるようなことが，将来的には出てくると思います。それをきちんと考えてもらえる時間が欲しいので，ぜひもう一回持ち帰ってほしいと，持ち帰りにしていただきたいと。

委員長，いいものをつくりましょう，本当にいいものをつくりましょう。水戸市はすごいなと言われるものをつくりましょうよ。そうでなかったら水戸市じゃないですよ。委員長，よろしくお願いします。

○綿引委員長　御理解ありがとうございます。

この条例は，委員長がつくるものじゃなくて，皆さんでつくるものでございますので，その点は誤解なきようにお願いをいたします。

そのほか，御意見のある方はいらっしゃいますか。

今，第４条に関して御意見を賜りました。基本，素案の中にある代表者会議だけの枠組みということの御意見はなかったというふうに思っております。そこに第三者をどう加えていくのか，外からの視点を，透明性を確保するためどう入れていくのかというところで，今議論が深まっているところでございます。

今，須田委員からの御意見がありましたので，多少その先のところが分かれている部分があろうかと思いますので，この件に関しては再度お持ち帰りをいただいて，次回の委員会までに，会派を含めて，個人意見も含めて，再度御意見を賜れれば幸いと存じますが，いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○綿引委員長　ありがとうございます。

あと，もう一点なんですけれども，先ほど滑川委員から御提案がありました相談体制の部分でございます。第７条のところに，プライバシーの保護というところで，大枠の記載はされているところではございますけれども，やはり様々なパターン，議員間，職員・議員，あるいは市民・議員，そういったものを想定して，きちんとそういった申立てを受けられる，あるいは，それをケアする相談体制が必要だという御意見をいただきましたが，その件に関して，皆様から御意見を賜りたいと思いますが，いかがでしょうか。

田中委員。

○田中委員　起きることの性質によって対応が変わるので，何とも一概に言えないところがあると思うんですけれども，水戸市の規程は，事が起きたときに被害者のほうが相談すると。しかし，まずは助言とか，ま

たは指導した相談等で解決が困難と認めるときは，次の，さっき申し上げた委員会にという，その前段階があって，前段階で決着というか，双方が納得すれば，謝罪があったり，被害者が納得したりということで，委員会には持ち込まれない場合もあるんだと思うんです。そのために市役所で相談員というのを窓口にして置いていると。

ですから，さっきも私，申し上げたんですけれども，あらゆる被害が，議長が窓口ということだと，非常に敷居が高いというのはあると思うんですね。なので，さっきも同じく申し上げたんだけれども，条例で書くかどうかという問題はあるんですけれども，やはりそういう仕組みは事前につくっておく必要があると思いますし，それから，第三者というお話が出ていますが，第三者に，外部の専門家の意見を聴取するということは，ここは皆さん一緒なのかなと思うんですけれども。じゃ仮に，誰が外部専門家足り得るのかということも，例えば弁護士さん１人でいいのかとか，そういうことに詳しい大学の先生だとか，いろいろ考えられると思うんですけれども，そういう条件が例えば水戸にあるのかどうかということもあるので，そういうことも調べないと，仕組みがつくれないのかなと思うんです。

なので，その辺，私たちも調べたいと思うんですが，調べていただいたほうがいいのかなという意見です。

○綿引委員長　ただいまの田中委員の御意見に対する御意見はございますでしょうか。

袴塚委員。

○袴塚委員　いろいろ考え方があるので，なかなかこれだという回答が，なかなかできないというふうに思うんですね。したがって，今の田中委員さんの話だけ取れば，事案によって，弁護士さんも得意技がありますから，いろんな弁護士さんのタイプがおいでになるので，これについては，特定の人を第三者と指定するわけにもいかない。

そういったことを考えたときに，個人のプライバシーをどう守るんだとか，今言った相談体制をどうするんだということになったときには，やっぱり議会は議長を中心に組織としてあるわけですから，議長さんが適切に，それに応じた相談体制ができるような方を指名する，もしくは議会が特定の方を窓口として，誰でも議員の皆さんが相談できるような，そういう顧問弁護士みたいな，そういうのを議会が特に指定して，その人にはいつでも誰でも御相談に上がれると，こういうふうなことをすることによって，いわゆる今の個別の事案とか，議長には言いづらいとか，そういうことの解決策にはつながるのかなというように思っています。

やはり，この条例をつくって，そして，その先どうするんだということが，卵とヒヨコの話になっちゃいますけれども，私は条例を先につくらせていただいて，そして，その中で相談体制等についても，今言ったような顧問弁護士がいいのか，どういう方がいいのか，そういう方を特定指名して，常時皆さん方が的確に相談できるような体制を取る，こういうことも一つの方策ではないかというように思っておりますので，なかなか個人個人の考え方があって，まとめづらいのかなというふうに思いますけれども，パフォーマンスでつくる条例という話もございましたけれども，条例はあくまでも，我々が一つの議員として，やっぱりしっかり活動していく。そのための支え，または補完的な要因，こういったもので条例，規則というのはあるのかなというように思いますので，皆さん方にお持ち帰りをいただいて，そういったところもきちんと精査をしていただいて，次回にはまとめられるように進めていただければよろしいのかなというふうに思います。

○綿引委員長　そのほか，御意見はございますでしょうか。

黒木委員。

○黒木委員　今日資料で頂いて，以前から頂いている素案について，これだけ見ていると非常に，どこも今までつくっている議会では，ほぼこういう形でつくられているのかなというふうに見ています。

その中で大切なのは，様々提案事項が出ていますけれども，ハラスメント等防止に関する指針という形で指針もしっかりつくらないと，この条例の素案だけ見ていると，ちょっと収まりがつかない，理解できない部分もあります。

例えば芦屋市では，先ほど，議長，副議長以外の議員による対応をしてほしいといった場合，議長でもなく副議長でもなく対応してほしいと思った，相談者がそう願ったときは，相談内容により，議長，副議長とは別の方の対応をできるということも指針の中で，細かくたくさん出ているんですけれども，そういうこともやっぱり懸念事項としてあるので，そういうのも指針の中で出ていますし，もうちょっといろんな不安を払拭できるような指針というのも組み立てていかないと，皆さん全員の一致の中でできる，条例というのはできないのかなと思いますので，その辺も，うちの党としても提案，具体的にさせていただきたいと思いますので，ちょっと時間をいただければというふうに思います。

○綿引委員長　須田委員。

○須田委員　今，黒木委員のほうから，指針の問題等もしっかりつくっていくべきだということがありました。

私たちって，執行部から条例を提案された場合，このことを聞きますよね。その条例をつくったら，どういうふうに運用するんだ，どういう組織をつくるんだ。それがきちんとまとまった上で，条例が乗っかっているじゃないですか。私たちは執行部に対して，そんな条例をつくったら，そんな運用の仕方が分からないんだったら必要ないだろうと，こういうことをよく言いますよ。と考えれば，急がなくても，指針をきちんとつくる，相談の窓口はどうする，それから相談のシステムはどうする，こういうものをきちんと決めた上で，きちんと条例をつくらないと，本当に意味がなくなっていくと思うんですよ。

議会だから，私たちの条例だから，条例を取りあえずつくって，それからいろいろ考えますという形は，あまりにも不安定。執行部に関して，いつも私たちが聞いている，例えばここととここが合併したら，どういう組織になるんだと，その先が決まっているのか，それから人員はどうなっているんだ，それから予算はどうなんだ，どういうふうに削減されるんだと，こういうことをやって，初めての条例ですよ。と考えれば，今，黒木委員から言われた指針なんかもきちんと整備した上で，その上のきちんとした条例に持っていくと，全会一致のすばらしい条例ができると思いますので，皆さんそれぞれ考えはあるでしょうけれども，それぞれに考えていただいて，当然議会ですから，皆さんの意見が通るものをみんなで決めることですから，そこら辺もきちんと指針から，さっきの受付窓口から，どういう形のときにどういうことが起こるという全部の想定をきちんとやって，なるべく漏れのないような条例につくり上げていければと思いますので，そこら辺，御配慮いただきたいと思います。

○綿引委員長　ありがとうございました。

様々な御意見を賜りました。各会派ごとで御意見を伺ったところでは，一部御意見はありましたけれども，

条例をつくることに対しては合意を得ているものだと思っています。その必要性に関しては，水政会さんのほうでは議会基本条例の中でというような御提案もありましたけれども，委員長として御提案をさせていただいている部分もありますので，条例のこの素案をベースに，今いただいた御意見，論点，第三者機関の関わり方，第三者の関わり方，あるいは相談体制の部分，あるいは，先ほど黒木委員から御指摘がありました，そもそもの目指すべき形，指針というところを，ある程度３点に絞った形で，一度お持ち帰りをいただいて，また次回の委員会のところで御意見を賜ってまいりたいと思いますが，いかがでしょうか。よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○綿引委員長　ありがとうございます。それでは，そのようにさせていただきます。

次に，２番の議会基本条例の検討についてであります。

本件につきましては，多くの会派から御提案をいただいているところでございます。

本日は，お手元に配付をしました資料２のとおり，条例案の検討に当たり資料を配付しておりますので，事務局から説明をさせます。

○大嶋議事課長　それでは，特別委員会資料の②を御覧願います。

初めに，議会基本条例とはどのようなものなのか，その概要につきまして御説明申し上げます。

まず，⑴の条例の性質についてでございます。

議会基本条例の名のとおり，議会の在り方や運営等につきましての基本的な事項を定めるものでございまして，地方議会の所管する条例の中で最上位となります当該地方議会の憲法とも言われる性質のものでございます。

この条例は，地方自治法や他の法律で制定が義務づけ，または求められている性質のものではございませんので，憲法第９４条に規定されております地方公共団体の条例制定権を行使しまして，各市議会が独自に制定をしているものでございます。

次に，⑵の条例制定の経緯についてでございます。

平成１８年に地方分権改革推進法が成立しまして，地方分権が各地で進展いたしております。その進展に対応するために，全国の地方議会で議会改革等の取組がスタート，進められてまいりまして，これらの取組の継続，発展を目的といたしまして，議会基本条例の制定が進められてまいりました。

全国で初めて議会基本条例を制定しましたのは，北海道の栗山町議会でございまして，制定自治体数はその後，平成２５年度あたりにピークを迎えまして，昨年度末現在で，全国の都市の約７０％に当たります５７１の都市が制定をしているというところでございます。

次に，⑶の条例に規定されている事項でございます。

この条例は，各市議会で独自に制定しているものでありますことから，条例の構成や規定する項目も多様になっているところでございます。その中でも共通する事項といたしましては，議会及び議員の役割，それから活動原則，議会運営の基本事項，市民や市長と議会との関係等につきまして，明らかにしている例が多くなってございます。

また，⑷に記載しておりますように，全国の制定事例も，理念型，基本事項型，改革推進型，総合型と，大きく４つに分類をされているところでございまして，条例の作成に当たり，どのレベルまで条例に落とし

込んでいくのかといったところも検討する必要があるものと考えられます。

最後に，２といたしまして，各市議会の事例等から，水戸市議会で議会基本条例を検討するに当たりまして，最低限必要となる事項を２番にお示ししておりますので，後ほど御参照いただきたいと存じます。

説明は以上でございます。

○綿引委員長　ありがとうございました。

それでは，暫時休憩いたします。

再開は全員協議会終了後といたしますので，よろしくお願いいたします。

午前１１時５５分　休憩

午後　１時１３分　再開

○綿引委員長　引き続き，お疲れさまでございます。

休憩前に引き続き，特別委員会を再開いたします。

それでは，先ほど事務局より説明がありました２番の議会基本条例の検討について，御意見等を賜ってまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

今回初めて出させていただいた資料でございます。

１番のところで，議会基本条例とはどういうものであるかということをお伝えさせていただきました。その中で，１番の(4)条例の類型とございますけれども，各地方で，各自治体で特別議会基本条例を制定されておりますけれども，大きく分けて４つのパターンに分類をすることができます。

また，条例の性質等を勘案いたしまして，２番のところで，水戸市議会における検討イメージということで，検討材料として(1)以下(8)まで項目を示させていただきました。まずはこの枠組みの中で，皆様から御意見を賜りながら，全体の構成を図っていきたいというふうに考えております。

午前中のハラスメントのところでも，議会基本条例にそういったものを含めるというような御意見もありましたが，特に制限を設けず，今日は皆様から広く御意見をいただいた上で，合意を図りながら，今お示しをさせていただいております枠組みの中を詰めていきたいというふうに考えておりますので，その辺を踏まえて御発言をいただきたいと思います。

田中委員。

○田中委員　類型について，ここにある４自治体，ざっと見てみたんですけれども，理念型，基本事項型というのは，ほぼ，今の在り方を条例に規定するにすぎないといいますか，ほぼ変わらないという印象を持ちましたので，基本的には，栗山町ほどにするかどうかは別として，改革推進型というふうにしたほうがいいのではないかというふうに思っております。

その際には，今日委員長が提示されたこの２番の，柱立てはこういう感じでやるのが自然だと思うんですけれども，各条文において具体的に改革の中身を，私どもも議論してほしいというのを別途申し入れていますけれども，そういったものが具体的に条例化されることが望ましいのではないかなというふうに思っております。

以上です。

○綿引委員長　ただいまの田中委員からの御発言に対します御意見等がありましたら，お願いをいたします。

安藏委員。

○安藏委員　前回発言させてもらった中で，小委員会の話をさせてもらいました。早速ここに取り入れていただきまして，これから基本条例を制定していくに当たりまして，本当に全国各地で制定されている中で，ここへ来て，いろんなメリット，デメリットの話もいろいろ聞こえてまいります。

そういう中で，水戸市は３５年前にできた先例・申し合わせ事項に沿って，ずっと議会が運営されているわけでございますけれども，まず先例・申し合わせ事項，あるいは開かれた議会という言葉がありますけれども，市民の方と議員がやっぱり近くで交流できるような場，当然それが開かれた議会になっていますし，議場の運営とかいろんな問題があると思います。

そういう中で，全体の議論は議論として，ただ，さっき言いましたように，先例・申し合わせ事項の見直しとか，開かれた議会の話とか，あるいは，これから水戸市として改革していかなきゃならないようなことが３つ，４つ，先ほどありましたけれども，そういう部分の中で小委員会というのを設けて，小委員会で話をもんでもらって，それをこの席でまた進めていくほうが，何となく話が広範になっちゃいますと，なかなかまとまるのが大変だと私は感じておりますので，ぜひその辺の議論もお願いできればなと。

○綿引委員長　ただいまの安藏委員からの御発言について，御意見等がありましたら，お願いいたします。

黒木委員。

○黒木委員　頂いた資料の中で１点，議会の災害対応という形で入れていただきたいという思いです。

東日本大震災３．１１，私たち水戸市議会も経験しまして，非常に大変な中，本庁舎が使えない，緊急的に旧市民会館に議会も移り，また市長部局も移り，その中で，私たち様々，市民の方から，いろんな大変な状況，大変な現場を見聞きしながら，その都度，災害対策本部に行くんですけれども，やっぱり２８人の議員がそれぞれ市民会館へ行くと，役所のほうも混乱して，大変な状況になったというときがありますよね。それを踏まえますと，水戸市においては，議会災害対応というのが必要だと思います。災害時の体制の整備，また災害等の議会の役割，また災害時の議長の役割，議長が各議員からの，いろんな地元の状況を受け止めて，議長が逆にまとめていただいて執行部に届けるとか，そういう役割というのは整理していく必要があるだろうと。

石巻市も視察に行ったんですけれども，そこで問題になったのは，やはりそれぞれの議員さんが，それぞれの地域の課題をそれぞれ役所に行くというのは，混乱の極みだったと。やっぱり議長さんがまとめる必要があるんだというところで，ぜひここに項目として災害時対応ということを入れるべきだというふうに思いますので，お願いします。

○綿引委員長　ただいまの黒木委員の御発言に対する御意見等があれば，お願いいたします。

後藤委員。

○後藤委員　今，黒木委員からお話があったことについてなんですけれども，台風１９号のとき，私たち議員も，地域のことを一番分かっているのは，その地域に住んでいる議員だと思うんですけれども，その議員がみんなでまとまって話ができないというもどかしさもございました。特に今後は，どんな災害が起こるか分かりませんので，ぜひ私も災害時の対応のことに関しましては，議会基本条例の中に入れたいなというふ

うに考えております。

○綿引委員長　そのほかございますでしょうか。

初めての案件でございます。平場の議論で，いろいろ皆様から御意見を賜りたいと思います。その上で，先ほどもお話をしましたが，枠組みの中で充実を図っていきたいと思いますので，できればいろいろな御意見を賜りたいと思いますので，よろしくお願いします。

須田委員。

○須田委員　議会基本条例，結構，最初にできた頃は厳しいものがいろいろありましたけれども，最近ではあちこちでつくっているというのが現状であります。

これまでつくっているところの問題点，課題というのをよく見てみますと，一番大きくどの条例に対しても言われているのが，いわゆるアクセサリー化，条例はつくったよというパフォーマンス的な状態になっているのが問題ではないか，じゃ要らなかったんじゃないかと，規則で十分だったという意見が大半で，調べている方々の話をすると，それはいけないんじゃないか，だったら条例は要らなかったんですよねと。

条例は，基本的には人を縛るものでありますので，そういう意味では，アクセサリー化を防ぐような条例，きちんとした内容に対して，きちっと入っていくような条例というのがまず必要なのかなと。

大きな概要で言わせていただきます。いわゆる出羽守化，では何々，では何々という，そういうような出羽守化するような条例じゃなくて，もうちょっと踏み込んだものをつくっていくべきだと思っています。そういう意味では，先ほど言ったような，実は私も議長のときに，防災のときの議会の役割をきちんとしようと，条例がつくれないかということだったんですが，議会の役割をつくった条例というのは，日本全国で津市しか条例化はしていないんですよ。そうすると，津市の条例化を見ると大変，何だろうこの条例という形になってしまうので，やはり基本条例の中で，そういうものを論議していくというのも一つの大きな役割でありますし，そういうところに踏み込んだ，今のは直接の内容じゃないですけれども，概要として，基本的にいわゆるアクセサリー化の条例はやめましょうよと。

先ほどの条例のときも言いましたけれども，やっぱり水戸は，わざわざ議会改革調査特別委員会をつくってやったレベルのことをどうしても，これ大津議長に聞いてもらうと分かるんですけれども，やっぱり水戸というのは茨城県議長会の会長に必ずなるわけですよ。それが関東にいって，全国にもいくわけですよ。そういうときに，ただつくったんじゃなくて，そのなかでもやはり，きちんと必要なことが盛り込まれたような深い条例にするためにも，きちんと時間をかけて規則化，だったら今までの議会規則でよかったじゃないと言われるような条例じゃないものをつくっていきたいと思うので，ぜひもうちょっと細部，もっと深く時間をかけて勉強させていただいて，それは当然お互いに勉強して，よりよいものをつくれればというのが私の今のところの意見です。

○綿引委員長　ただいまの須田委員からの御発言に関する御意見等がありましたら，お願いいたします。

後藤委員。

○後藤委員　議会基本条例についてなんですけれども，私たち，取りあえず前に進もうということで，特別委員会を設置することになりました。なので，この基本条例をやってみて，もし方向性を間違っているなと思ったら変更して，みんなで相談をし合いながら進めていくのが大事なのかなと考えております。

○綿引委員長　須田委員。

○須田委員　ごめんなさい，今の意見に対抗とかそんなんじゃないですが，ちょっと違和感があるんですよ。というのは，条例をつくるんです。条例ですよ，法律をつくるんですよ。じゃ，国がつくります，県がつくります，市が条例つくりますといったときに，取りあえずつくってみましょうよ，その後みんなで話し合って変えましょうよというのは，やっぱり法律だから，そういうような不確実な問題だったら規則で構わないわけです。

条例じゃなくて，規則で実際やっていて，規則は変えられるわけです，それは簡単に。条例なんだから，私はちゃんと深みを持った，取りあえずつくるのが目的じゃなくて，住民に対して市民に対して，私たちがどういうような姿勢でやっているのかを示すものが，今取りあえずつくっちゃいましょう，後で話し合いましょう，僕はちょっと違うんじゃないかと思うんですけれども，皆さんどう思うだろう。ちょっとそうじゃないなと。

何らかの理由でつくることに急いでいるんだったら別ですけれども。これ急いでいないですよ，今さら後発ですから。となれば，やはり水戸らしい，きちんとしたものをつくるべきだと思いますけれども，取りあえずつくりましょうは，僕は今のところ反対です。きちんとしたものをつくりましょう。

○綿引委員長　後藤委員。

○後藤委員　私もちょっと，取りあえずと申し上げてしまったことに関しては，言い方がちょっと適切ではなかったかなと思います。取りあえずではなくて，この特別委員会ができたので，どんどん一歩ずつみんなで進んでいきたいなという，そういう思いを言いたかったんです。

それは，きっと皆さん同じだと思うんですけれども，ただ，基本条例が決まらないとなかなか先に進めないような，今状況ではございますので，意見を一生懸命出し合って，みんなで勉強して進めていきたいなという思いです。

○綿引委員長　須田委員。

○須田委員　委員会の当初の目的で，なぜコ型になったのか，議員同士がきちんと意見を進めましょうというのが今実現しているなと思って，大変うれしく思っています。確かに取りあえずというところを取って，私，取りあえずということ，そこのところをとりわけ強調して思いましたけれども，誰もが，つくっていくなら早く，一歩一歩きちんとやろうという話は共通だと私は思っています。

その上で，しかしながら，運営していく中で変えていけばいいんですよねという感覚じゃなくて，条例だからきちんとしたものを出して，例えば市のほうが条例を出してきましたと，実はこれ都合が悪かったのでここを変えますよと，次の１年目にやったら，何やってるんだ，おまえら，きちんと勉強したのかという話にもなってしまうので，着実に早くやりたい，これもよく分かります。それは共通ですが，きちんとした成果品として上げていく。その後ろのバックボーンもきちんとしていく。それが議会が条例をつくっていく上で，バックボーンをちゃんとして，だって，半年とか１年で変えたら，あなたたち何を論議していたのよというふうに，私だったら執行部に言いますもの，必ず。４月にこれだけ予算を取ったでしょう，何でこんな不用額があるのよというじゃないですか。条例だって，去年つくって，例えば何かで変わったならいいですよ，新しく都市公園が増えたから都市公園の住所を入れましたとか。じゃなくて，やっぱり間違ったから

ちょっとこれ変えますというのではなくて，やはりもうちょっと条例というものが，どれだけの重みがあるか，特に基本条例は憲法ですから，私たちの。憲法をそんなに変えることじゃないですから，その憲法の重さを感じなきゃ，私たちはやっちゃいけないと思っているんですよ。そうすると，基本条例は憲法なんだから，しっかりしたものを論議してつくる，それをなるべく早く進めるというのが正しいかなと思いますけれども，皆さんの御意見等も聞いていただいて，すぐに取りあえずつくっていくということが皆さんの一義だったら，それでいいですし。だけれども，憲法だということだけは忘れないでください。

○綿引委員長　安藏委員。

○安藏委員　いろいろ議論が進んでいますけれども，たまたま私たち，会派で昨日，北海道のニセコ町へ行って，まちづくり基本条例という話を聞きました。こういう資料がありますので，ぜひ御覧になっていただければと思います。

そういう中で，私，前回もちょっと言ったと思うんですけれども，この前，基本条例についての話が一番多いので，やはりこれは専門家の話を聞いて，それで，今言った３つくらいの小委員会に分かれて，今のような議論は小委員会ですべき議論だと思うんですよ。小委員会で出てきたことをこの席で皆さんで話し合って決めていくのが順番かなと思います。

ニセコ町のまちづくり条例というのは，町と議会と市民と一体になった条例ができているんですよね。こういう，いろんな方法があると思いますよ，条例をつくるには。ただ，さっき言ったみたいに憲法なので，今までは水戸市の先例・申し合わせ事項で，ずっと議会が運営されてきたんですけれども，いよいよここへ来て，総意として議会基本条例をつくるということなので，ぜひ十分な勉強をしながら，最高の基本条例ができればいいなと思っていますので，意見として申し上げます。

○綿引委員長　田中委員。

○田中委員　意見は先ほど言ったとおりなんですが，委員会のつくり方，今，小委員会の提案があったんですけれども，私は，せっかく全議員でつくった意味が損なわれるんじゃないかなという懸念をしております。少ない会派は，例えば３つつくったら，３つ行けないわけですから，どういう議論をされて集約するかという過程も大事だと思いますし，新しい議員さんも多いという中ですので，この場で一つ一つ決めていくのが一番いいんじゃないかなというふうに思います。

災害対応については，もちろん入れるべきだというふうに，皆さんの意見を聞いて思いました。

もう一つは，つくるに当たって，せっかく例示されている４自治体を例えば資料として，自分で取れば見られますけれども，どういうレベルで水戸市はつくるべきかという議論を例えばするとかということもあろうと思うんですが，はっきり申し上げて，甲府市とか川崎市と同じようなものをつくっても，私は意味がないというふうに率直に思いましたので，であるならば，どこまで具体的に盛り込んでいくかということが問われてくるので，それはもちろん安藏委員さんがおっしゃるように，先例・申し合わせを変えなければできないこともたくさんありますので，ですから，それを一つ一つ議論していくと。

例えば，⑴前文，総則から順番にやっていくとか，案文を提示していただいてとかというようなことが，時間はかかるかもしれませんけれども，一番早いのかなというふうに思います。

○綿引委員長　そのほかございますでしょうか。

須田委員。

○須田委員　小委員会制の話が今幾つか出ているんですが，小委員会制がちょっと私も見えないんですよ，どういう委員会をつくるのかとか。そう考えると，それがきちんと明示されて，これならいいんじゃないのというのがあるんだったらいいんですが，実はそう言いながらも，やっぱり憲法をつくっていくと，議会の憲法をつくっていくんですよ。憲法をつくっていく。

憲法審査会にかけて，憲法審査会から何とかという報告も，国なんかはあるんでしょうけれども，私はほかの委員会はともかく，この委員会に関しては，その小委員会のつくり方が上手にできて，誰もが納得するものであれば，効率的なやり方があるんだなと納得します。納得もするし，賛成もします。

だけれども，今のところ，小委員会のイメージがちょっと湧いていなくて，どの部分をどの委員会が，憲法第１条から第１０条までを云々ということが見えてこない状況では，まず提示してもらって話合いしたほうがいいのかなと。その委員会が納得というか，なかなか効率的にやるのは当然だと思っているので，別に反対するわけじゃないですけれども，憲法をつくる場となれば，全員の身分に関するものなんですから，私は全員で今のところ，やってもいいのかなと思っています。

ただ，その小委員会のやり方で，委員会の構成の仕方，こういうものをこういうふうに割り振るんだよというのが，いいものができて効率的であれば，それはそれで進む速度が速くなるわけですから，そういう意味では，僕はそれはそれでいいと思います。

今のところ，小委員会がまだ見えないので，やっぱり皆さんの身分に関するもの，それから住民の皆さんの行動に関するものですので，今のところは全体の委員会でいいのかなと思っています。

○綿引委員長　安藏委員。

○安藏委員　すみません，何かいろいろな異論が飛んできました。

私が小委員会制度を発言したのは，せっかく各会派からいろんな意見が出てきて，それを事務局のほうで，議会機能強化と市民情報共有，そして市民参画ということで分類をしていただきました。

私はこの中で，例えば，さっき言いましたように先例・申し合わせのこともありますし，水戸市として市民に広く開かれた議会にするにはどうすればいいとかというのは，これは市民参画の推進ですよね。あと情報共有の部分も，それはさっき言ったみたいに，いろんな各委員さんの中で，それぞれ得意分野があるような気がするので，この部分で話をもみながら，そしてこの席で検討して決めてくるということにしないと，何か皆さんそれぞれいろんな意見がある中でも，発言する人，しない人，出てくるので，できれば小委員会だったらば，もっともっと水戸市議会のための発言があるのかなと思って発言したんです。

以上です。

○綿引委員長　須田委員。

○須田委員　確かに安藏委員が言うとおりであって，いろんな意見がごちゃごちゃに出てくる部分が多いなというところは，私もすごくよく納得しています。そういう意味では，委員会の中でも，実は何で言っているかというと，これ委員会であって，会派制じゃないんですよ。それぞれみんなが委員なんです。一人一人が委員。

だけれども，今度，例えばそれで代表者会議となれば，当然ながら代表者会議みたいなところでやるとい

う話になればあれですけれども，小委員会制になると，やはり入れない委員も出てくるわけですよね，場所によって。と考えると，それぞれのいろんな意見が，あっちにいったり，こっちにいったりという論議を止めるためにも，きちんとある程度の方向性が出たときに，委員長の下で，今日はこのテーマを話しますというのでやりながら，この部分に関しては全員で話す必要はないですよね，じゃこれは小委員会をつくりましょうとか，場面場面で取りあえず小委員会の作成をするほうが私はいいのかなと。今のところちょっと，どういうふうな小委員会ができるか見えていないので。

全員に関わるものに関しては全員でやる，それから小委員会は，特にこれは皆さんで話し合わなくていいですよね，これは皆さんでちょっともんできてください，難しいですから。こういうところは小委員会でやるような形が，私は今のところベストだと思っています。

それと，皆さんの意見があっちいったり，こっちいったりしないように，いろいろテーマをきちんと決めて，今日はこれでやりますよという形を，委員長，副委員長で仕切っていただければいいのかなと思います。

○綿引委員長　ほか，御意見はいかがでしょうか。

高倉委員。

○高倉委員　今日は，まず議会基本条例の概要とか各自治体の取組なんかを示していただいたので，今日ここで大部分を決定していくというふうじゃないでしょうけれども，一旦持ち帰って考えてくるということで，各会派からこれまで提案された中で，やはり議会基本条例というのが多数の会派から出ているということは，大変重要なテーマなのかなと思うんですが，先ほど来ありましたけれども，やはり議会の最高規範をつくっていく上ですから，今後，あらゆる規則や条例，議会に係るものは全部ここに集約されると思うんですね。これが基になって，いろんなものが出来上がっていくというものになるので，やはりしっかりとした議論をしていかなければいけないと思います。

まず，骨格一つつくるのでも時間がかかると思います。例えばこの前文なんて，ここに理念とか決意を盛り込む，どういうふうなのをやっていくんだということになると，様々な議論があるので，今後，進め方に関しては正副委員長にお任せしますが，例えば手続一つだって，最終的にパブリックコメントにかけていくとか，やはり市民の参加を募っていくとか，そういう形を取っていかないと，やはりそういった最高規範は出来上がっていかないもので，ある程度時間が必要ですし，十分な議論を尽くして，今度は全議員が納得するような，そういったものができればいいなと思いますので，今後の進め方としては，その点をよく御留意いただければなと思います。

○綿引委員長　そのほかございますでしょうか。

ちょっと私のほうからお伺いをしたいんですが，この資料にも書いてあります条例制定の経緯のところで，平成２５年をピークに各自治体で取組がなされたんですけれども，水戸の議会で，先輩方にお伺いをしたいんですが，なぜその時期に条例ができなかったのか。そういった経緯，もしお分かりの方がいれば，少しお話をいただきたいと思うんですが。

須田委員さん，御記憶はございますか。

○綿引委員長　須田委員。

○須田委員　ごめんなさい，なぜ話したかというのは説明できますけれども，なぜ話さなかったかというの

は説明ができないと思うんですよ。というのも，確かにあの当時に言った方はいたと思った。議会改革に一生懸命，前の袴塚議長さんが議会改革，何年前でしたっけ，すごい取り組んでいただいたり，いろいろ頑張っていたときがあったんですが，当時多分，アクセサリー化の問題もあって，私はあまり必要ないのかなと。議会規則で十分やっているし，議会の規則と申合せの見直しが必要だよねと。例えば申合せの中に，明らかな法律違反をそれはやらないこととわざわざ規定して書いてあるんですよ。条例がやらないと決まっているのに，ここで言っている意味もなかったりする部分も，申合せだったっけ，何かそんなのがあったような記憶がちょっとするので，そういう意味では，そのときには必要なかったと。

しかしながら，今回新しい議員さんが増えたわけですよ。しかも，こうやってわざわざ議会改革の特別委員会を開いてきた。水戸市としての姿勢を示すと。そして，申し訳ないです，言い方は悪いんですが，新しい議員さんにもきちんと理解してもらって，どんどん論議に参加してもらう。そういう状況ができると。水戸市というのは，やっぱり県内のリーディング市である。当然，北関東でもリードしていく，関東の中でも有数の都市でありますので，そういう意味では，今この機会はすごくいいと思いますが，当時はその論議にならなかったと。それだけの話だと私は思っていますが，先輩方がどう覚えているかよく分からないので，よろしくお願いします。

○綿引委員長　松本委員。

○松本委員　それぞれ多くの委員さんからいっぱい出ています。今日ここで，げんこつの下ろすところをこうだということについては，ちょっと難しいだろうというふうに思っています。ですから，もう一度皆さん方が各会派に帰っていただいて，その中で議論をしていただいて，そして，委員長さんには大変申し訳ないんだけれども，近いうちにまたこの委員会を開催していただきたい，このように思っております。

ですから，私のほうは，午前中も申し上げましたように，あのような形でもって進めていっていただきたいし，条例の中に細かくどうのこうのというのをうたわないで，申し合わせ事項あるいは運営規程，運営規則というんですか，そういうものの中に細かく打ち込んでおけばいいのかなというふうに私は思っています。

ですから，条例で表立って，議長の責任がどうだとか，誰がどうだとかということじゃなくて，やはり申合せ，運営規則・規程とか，こういう中に細かく，ある程度皆さんが理解できるような形の中でもって，つくっていけばいいのかなというふうに私は思っていますので，あとはこれ，正副委員長さんのほうにお願いなんだけれども，その辺のところを事務局のほうと，もう少し具体的に協議をしていただいて，次回の委員会を早めに決めていただいて，やはり条例というのは，私は早くつくったほうがいいだろうというふうに思っていますから，１２月の議会に条例ができれば，私はいいのかなというふうな思いもございます。

あとは委員長さんのほうにお任せをしますので，今日はこの程度がいいんじゃないかなというふうに思っています。

○綿引委員長　袴塚委員。

○袴塚委員　まず，これまでにこういった論議があったかないのかということで，先ほど須田委員さんのほうからお話がありましたが，実はそういう機会がなかったわけではなかったんですね。私のときに，先例・申し合わせ，全部見直しを行って，そして条例の話もあったわけですけれども，その頃はまだそういう機運ではなくて，先輩議員の皆さん方も含めて，先例・申し合わせを現代に合ったように直せばいいのではない

かと，こういうようなことで落ち着いてきたというふうに思っています。そういった中で，各地で基本条例，または様々な条例，規則が出てきて，今本当に，これをやらなければ乗り遅れみたいな，そういう風潮がなきにしもというように思っています。

ただ，これからの議会基本条例，あくまでも，やはり今までの先例・申し合わせ事項を重視しながら，それにどういうふうな肉づけをしていけば，水戸市の議会の条例としてスタートできるのかと，こういうことをまとめていく。そして，それをまとめた中で，皆さん方から御意見をいただきながら，それを補完していくと，こういうやり方が一番スムーズなのではないかなと。それで，その中で，先例・申し合わせ事項の中にも当然足りない部分もありますから，それは他市の事例，他市の条例を十分に参考にしながら，補完をさせていただくと。

ただ，条例をつくるときに，あまり細かいところまで規制を考え始まると，なかなか条例ができにくい，そういう環境がないわけではございませんので，できればある程度の骨子，そして，ある程度の肉づけをした中で，不足部分については皆さんと御相談しながら，運用規程もしくは，さらにはその中での申合せ，規則等をつくって，そして条例を補完していくと。こういうふうなことでいかないと，これ多岐にわたって，いろんな意味で中身が濃いことになってしまいます。完璧なものをつくれればいいんですけれども，なかなかそうもいかないということであるとすれば，先例・申し合わせ事項を軸に，他市の条例等を勘案しながら，ある程度の形をつくっていただいて，そして，それを次回の議会に，この委員会にお示しをいただければというふうに思っておりますので，委員長のほうでよろしくお願い申し上げます。

○綿引委員長　ありがとうございます。

ほか，ございますでしょうか。

藤澤委員。

○藤澤委員　ありがとうございます。

松本委員については，今，袴塚委員のほうから話があったことを受けてなんですけれども，まず，私どもは１０人の新人がおりますが，これまでの議会の運営においては，先例・申し合わせ事項，これを中心に進められた，これを要は条例化していくというような理解で，まずよろしいのかという質問があります。

もう一つは，別紙の資料３のほう，この後に話が出るのかもしれませんが，各会派から様々な申入れがございます。これを条例の中に一つ一つ当て込んでいくと，さらに時間がかかると。なので，松本委員がおっしゃったように，条例は条例として，やっぱり中心となる規範ですから，これはこれでまずはつくる。そして，細則で別紙に定めるとか，そういうような形でやっていけば，細則のほうを少し時代によって修正していけば，あるいは新しいアイデアを取り込めば，どうにかできるのではないかというふうにも思います。

質問と意見と両方ですけれども，よろしくお願いいたします。

○綿引委員長　須田委員。

○須田委員　最初に冒頭，私，言いましたが，各議会，それから調査機関等の現在，この基本条例に対する考え方，なぜどこが問題だったかというのを，皆さん見たことがあるでしょうか。各議会もしくは調査しているいろんなシンクタンク等を見ると，デメリットとして出てくるのが，結局アクセサリー型だったというデメリットです。じゃ要らなかったんじゃないのというのがデメリットで，皆さんよく，ちょっと調べてみ

てください。それが問題だということで，だったら規則でよかったんじゃないんですかという形が，大変デメリットとして出ています。

それから，メリットの方角として，実はメリットではないんです，デメリットのほうに入っちゃうんですけれども，市民は別に認めていないよというのがアンケートの中に出てきています。それが各自治体の結果であります。

と考えれば，なるべく早くつくるのがいいんですが，やるとすれば，私は先ほど田中委員からあったような理念型や基本事項型，これはやっても意味がなかったよというのを各自治体で言っているんですから，よく調べていただいて，皆さん多分見ていないと思うんですよ，それは見れば出ていますから，何が問題点だったのかと。それだったら，やる必要がなくなるので，僕は改革推進型ぐらいはやらなきゃならないのかなと。

また，うちの小泉委員から，先ほどの条例に関しては，この中に入れた総合型というのも当然ありますから，ウとかエじゃないと。皆さん，各議会，結構な先例市が，それはよくなかったんじゃないとコンサルさんとかに言われているんですから。そこのところきちんとウとかエに踏み込まないと，水戸市としてやる意味が大してない，何のためにやったんだろうということになるような気もするんですよ。

そういうところも調べて，例えば逆に，ア，イ，ウ，エ型のうちの基本となる何型にするのかとか，そっちの論議をしていただいて，ウ型にするといえば，それに準じた条例は，ほかの市町村から，当然ここにも出ているように北海道栗山町みたいのもあるわけですから，それに準じて論議しましょうとできると思うんですよ。今の感じだと，取りあえず条例をつくるけれども，今までの規則でいいでしょうと。じゃ条例の意味って何ですかと，そうなっちゃいますね。

だから，ウぐらいやるんだったら，いいんじゃないかという話です。それを，アかイかウかエかとあるんですから，それを論議すべきじゃないですかと。

○綿引委員長　滑川委員。

○滑川委員　ありがとうございます。

今回初めて提示されましたので，会派として，個人としても，ちょっと考えたいなというところが正直なところです。特に，(4)のア，イ，ウ，エと型がございますが，私もまだ実際にどういった文言で，どのようなことが記載されているのかというところが，まだ確認ができておりません。

なので，これも踏まえて調べさせていただきまして，どれが水戸のスタイルに合うのか。多分これ，無限にできちゃうんですよね。本当に大まかな大枠だけをつくることもできますし，物すごい掘り下げて細かくすることもできるので，やはり先ほど須田委員がおっしゃったように，まず型をどの方向性で持っていくかというところで，その内容も何となく方向性が決まってくるのかなと思っております。

なので，一度持ち帰らせていただきまして，調べれば分かるんですが，先ほども別の委員さんからもあったとおり，もし可能であれば参考までに，資料請求になっちゃうんですが，ここに書かれている例の，何か文書というか紙で頂けますと，より深い議論の材料にはなるのかなというふうに思いますので，ちょっと持ち帰らせていただければと思います。

○綿引委員長　それぞれ御意見をありがとうございました。

今日の段階，まずはお示しをさせていただいて，今お話がありました条例の類型の部分，あるいは２番のところで新たな項目を追加するということで，様々な御意見を賜わりました。

今回は，これを基本に進めていくということだけ合意をいただいて，引き続き継続審議してまいりたいと思いますが，いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○綿引委員長　ありがとうございます。

それでは，本件につきましては，各会派でお持ち帰りをいただきまして，次回以降，改めて御意見を伺いながら，委員会のほうを進めてまいりたいと思いますので，よろしくお願いいたします。

次に，３番の各会派等からの申入れ検討事項の優先順位についてであります。

本件につきましては，前回の特別委員会におきまして，各会派等から申出のありました検討事項の優先順位について御協議をいただき，各会派等で持ち帰り検討となっているところでございます。

本日は，お手元に配付いたしました資料③のとおり，前回の御意見等を踏まえて，新たに追記した項目に網かけをさせていただいております。

それでは，本件につきまして，御意見等がございましたら，改めてお願いをいたします。

松本委員。

○松本委員　これは，それぞれの会派が，こういう問題をということで提案をされていますね。ですから，皆さん，どれも先にやりたいと思っていると思います。しかしながら，それは，やはり混乱もしますので，正副委員長のほうである程度決めていただいたほうがいいのかなと，私はそう思っています。

以上です。

○綿引委員長　ただいまの松本委員からの御発言について，御意見がありましたらお願いいたします。

最初の段階のところでは，書面で御提出をお願いしますということで御依頼させていただいておりましたが，今回網かけをさせていただいておりますところは，前回の委員会のところで，発言の中で御指導いただいたものを加えさせていただきました。今回もスムーズな運営を心がけたいと思っておりますので，口頭での御提案も，引き続きお受けしていきたいと思っております。

また，字面が変わっていても内容等が似ているもの，まだまだ精査できるものはあると思っております。また，議会基本条例，先ほどどなたか御意見がありましたけれども，議会基本条例の議論を進める中で，そこに組み込まれていくであろうものも散見されますが，それ以外に，単独で随時諮っていけるものもあろうかと思っています。その辺について，もし皆様から御意見をいただければということで，今回の御提示をさせていただきました。

それは，私がちょっと言っちゃうのは語弊があるかもしれないんですけれども，例えば会議の飲み物についての持込みについてとか，そういったものは多分，次，これを議題として御提案させていただければ，その場で即決ができるのか，またそれ以外にも，それに類似したようなもの，１回議会で単独で決めていけるものもあろうかと思いますので，そういったものを取り入れていってもよろしいかどうか，少し御意見を賜りたいと思います。

袴塚委員。

○袴塚委員　これ提案ですから，取り入れていっていただきたいんです。

これまで論議の中で，議会中継の字幕スーパーについて，表示についてとか，タブレット端末の端末またはＩＣＴ化等については，タブレットについては，須田議長のところで購入を決定して，間もなく機械が来るというようなことでございますし，字幕スーパーについては，来年度の予算の中で整理をしなくちゃならないと，来年から始まるとすればですね。

いち早く，やっぱりできることについては，しっかり一つ一つ皆さんの御賛同，おおむねの御賛同がいただければ，ある程度決めていっていただくというようなことにしていただいて，そして，進められるべきものについては，いち早く進めていくというようなことにしていただいたほうがよろしいのかなと。

議会中，基本条例を始めますと，恐らくこれから，先ほどのパワーハラスメントとか，こういうものも含めて，時間がかかる部分もございますので，時間のかかるものについては，これは時間をかけてやっていくということでございますけれども，簡単に終わるもの，もしくは皆さんの御賛同がすぐ得られそうだなと，こういうふうなものについては，一つの委員会で１個か２個ぐらいずつ，委員長，副委員長で御相談をしていただいて，そして一つ一つけりをつけると，こういうふうなことにさせていただければ大変うれしいなと，こういうふうな御提案をさせていただきたいと思います。すみません。

○綿引委員長　ありがとうございます。

そのほか御意見はございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○綿引委員長　よろしいですか。

それでは，今いただきました御意見を踏まえまして，次，また議題の選定を正副委員長に御一任いただきたいと思いますので，御承知おきをお願いいたします。

次に，この際，今後の予定についてお諮りをさせていただきます。本件につきましては，水戸市議会ハラスメントの根絶及び防止に関する条例案や水戸市議会基本条例の検討のため，お手元に配付をいたしました資料④のとおり，１１月２４日と１２月１５日に特別委員会を開催してまいりたいと考えております。

前回，前々回の委員会で，今後の進め方について等に関しても，いろいろ御意見を賜りましたので，まずは年内のところ，こういった日程のところで，日程案件のところで進めさせていただきたいと思いますが，皆様いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○綿引委員長　ありがとうございます。

それでは，そのように決定をさせていただきます。

それでは，以上をもちまして，第８回の議会改革調査特別委員会を散会いたします。

お疲れさまでした。

午後　１時５８分　散会